

東瀬戸内をつなぐ経済情報誌

2014 MAY

MONTHLY マンスリー
REPORT リポート

5

Vol.37 No.436

◆定例調査

第136回東瀬戸圏企業経営動向調査

◆寄稿

中山間地域の実態と活性化のための基本戦略

◆トレンド・リポート

製造業・非製造業両輪で国内外の設備投資を促進

◆わがまちの活性化戦略

岡山県倉敷市 第3回





井上峰一
倉敷商工会議所
会頭

「すべてに利益や対価を求めるだけではつまらない。どんな企業も、地域に育ててもらい、地域にお返しする」一。本業や禅の教えを通じて得た私の基本ポリシーです。

昨年11月の会頭就任以来、地域の発展には何をすればいいのかを考えてきました。さまざまな課題がありますが、「随所作主 立處皆真(随所に主となれば、立つところ皆真なり)」を肝に銘じています。中国・唐で臨済宗を開いた臨済義玄禅師の教えで、常に主体性を持って行動すれば、どんな変化にも存在感を示し、振り回されることはないという意味です。

私は会頭としての任期中、「ヒューマンサイズのまちづくり」を進め、人々が触れ合い、集い、歩いて楽しい街を目指していきたい。

最大の課題はJ R倉敷駅付近連続立体交差事業、いわゆる駅の高架化です。駅北の大型商業施設には、多くの買い物客が訪れています。美観地区周辺は、官民連携による中心市街地活性化事業の成果もあり、通行量が増えています。高架化によりこの間の交通がスムーズになれば、回遊性が高まるのは自明の理で、自転車や徒歩で行ける距離にあるのが大きなポイントです。

このエリアには、全国有数の病院である倉敷中央病院もあります。高齢化の進展を見据え、医療福祉都市として発展する要素はそろっています。

駅周辺の利便性が高まり、都市型産業の集積が進めば、雇用の場が増え、倉敷や周辺地域の若者を吸収できます。このことは岡山県からの人口流出に歯止めをかけることになり、県全体の発展につながります。

また、水島の活性化を図るため、倉敷との一体化を進める必要があります。幸いなことに倉敷と水島の間には、水島臨海鉄道が走っています。この鉄道は倉敷の宝です。利用促進の方策として、倉敷駅への乗り入れも推進を検討したいと考えています。

こうした課題と主体的に取り組んで、スピード感のあるまちづくりを進め、地域への恩返しをしたいと決意を新たにしているところです。

立處皆真のまちづくり